

自己のアイデンティティーについて議論を深め、交流した
学生たち=米ハワイ・ホノルル市の東西センター



異文化認め合い大切

学生同士とことん論議

世界のウチナンチ in ハワイ

【ホノルル1日】平良吉弥「世界の沖縄県系人が初めて海外で集い、文化や経済など幅広い分野で話し合う」第一回世界

のウチナンチユ会議(主催・ハワイ沖縄連合会、WUBハワイ)は一日(日本時間二日)、ホノルル市の東西センターで開かれ、十の分科会で活発な議論を展開し、初日の討議を終えた。ハワイや県内、米国本土、南米など十カ国から多数が参加した。

の学生ら約五十人が出席した「異文化交流―ユースプログラム」では国際交流と教育、アイデンティティーなどについて討論を行い、学生同士の自己のアイデンティティーに対する意識の違いが明らかになった。

明治大学三年の日浅綾子さん(三)は「自己のアイデンティティーについて強い意識を持つ沖縄の参加者の考えが最初はあまり理解できなかった。しかし、討議を通して自分のアイデンティティーについて知ることの重要性を感じた」と話した。

実行委員でハワイ大学修士課程一年の前原梢子さん(三)は「自己のアイデンティティーを客観的に見ることによって他者と違う部分を認めること

で、重要な課題を思ってもらいたと思う」と成果を強調した。

移民したウチナンチユのルーツを探る系図作成講習会では、ハワイ沖縄系図研究会(ナシィン・賞銘会長)のメンバーが参加者の名前や移民史などから県内での出身地を分析する方法などを紹介。県系三世や四世の間で祖先の出身市町村が分からないなどの問題があるなかでの解決法を説明した。

討議の二日目は海外で活躍する県系人のきずなを再確認し、経済、文化など幅広い分野での新たなネットワーク構築に向けた議論を繰り広げる。